

世界の情報を暮らしに活かす情報発信マガジン

Apple Town

Fresh Information for Your Best Life

3

2012 March
No.252
www.apa.co.jp

ビッグトーク 参議院議員 荒井広幸

妥協と迎合に別れを告げ 正々堂々と自らを主張する 日本を目指せ

好評連載 藤 誠志の社会時評エッセイ

今年を日本復活の元年としよう

特集 万が一に備える防災グッズ大百科

Best Life[ベストライフ] 女優 斎藤陽子

流行ブレイク烈伝 ZOZOTOWN

スーパー企業最前線

株式会社アミューズ



アパホテル
(東京九段下)
TEL.03-5210-7111
2011年12月13日OPEN
天雷軒 九段下
◎東京ドーム、日本武道館、
靖国神社近く

The Tatsujin

達人

File No.83

銀座ケイスキン
クリニック
医学博士 院長

慶田 朋子

医学博士 慶田朋子さんが院長を務める美容皮膚科「銀座 ケイスキンクリニック」の方針は、メスを使わずに最新の医療機器照射と注射、内服・外用だけで、昔の自分を取り戻して見た目の印象を変える手伝いをするということ。最も難しい目の下や口周りの細かいシワまで自然に仕上げる高度な技術・美的センスが高い評価を得ている慶田さんに、クリニックの仕事やスキンケアのアドバイスなどについて話を伺った。



慶田 朋子

Tomoko Keida

東京女子医科大学医学部医学科 卒業。医学博士。日本皮膚科学会認定皮膚科専門医。東京女子医大皮膚科学教室に入局後、東京女子医大皮膚科助手、聖母会聖母病院皮膚科医員、都内皮膚科・美容クリニック勤務を経て、2006年に、有楽町西武ケイスキンクリニックを開設。西武有楽町店の閉店に伴い、2011年より銀座ケイスキンクリニックを開設。明るくさっぱりとした性格で、何でも気軽に相談できる人柄に魅了されるファンは多い。



[達人の真髄]

「愛は許し、許されること」

デッサン力が活かした 美容皮膚科の仕事

皮膚科の中でも、美容というニッチな分野を担っている
と語る慶田さん。子供の頃からの意外な趣味が、今の仕
事に活かしているという。

「昔の友達からすれば、私が美容の仕事をするなんて思っ
てなかったと驚かれるぐらい、子供の頃からガリ勉でイン
ドア派でした。小学一年から手芸をするなど、手を使うこと
が好きだったんです。絵を描くのも好きで、大学に行くま
では女流画家の先生のもとで油絵を描いたりもしていま
したが、この時に培ったデッサン力が、いまの仕事に活かされ
ると思いませんでした。ヒアルロン酸を注入するに
しても、その方の骨格を見て、どこに注入すれば影が出ない
のか、どこか高さを出すのがいいのか、それともシミを消す
のが優先なのかなど、デッサン力が活かしているのです」

数年前の自分に戻る そのお手伝いを

美容はこ褒美治療であり、命に関わりがない。しかし見
た目の大切さは、次第に重要視されつつある。

「当院には、顔かたちなど生まれ持った容姿が気に入らな
いという方はあまりいらっしゃいません。ただ、最近ではエイ
ジングコンプレックスという言葉があるのですが、五、六年前
に比べるとシワができた、疲れて見られたりしてしまいが
ちで、自己評価が下がっていくのをなんとかしたい。そこで
私たちがお手伝いするのは、
顔のかたちそのものを変え
てしまうのではなく、数年
前の自分に戻してあげるこ
と。例えば、ヒアルロン酸を
注入して目の下の凹みを
膨らませたり、伸びきったコ



ラーゲンを締め上げてリフ
トアップするだけでも、印
象は変わります。

日本は昔から、見た目
よりも質実剛健みたいな
ところがありませんが、最

近になってようやく、会社の人事の現場などで、見た目の
イメージの大事さが重要視されるようになりました。見
た目の印象の良い人の方が良い働きをするというのは、
雇用する経営者の立場では常識だと思います。歪んだ
顔の表情が癖になっている人は、本当に歪んだ顔になりま
すし、左右が対称でない顔は、何らかの障害がある可能
性を敏感に感じ取られ、違和感を持たれるのです。私た
ちの治療は、好印象を与えるバランスの良い顔立ちにする
お手伝いなのです」

これだけは守りたい正しいスキンケア

「スキンケアの基本は二つです。一つがまず、洗浄。年齢や性
別によつて異なるのですが、男性は正常でも皮脂の分泌量
が多いので、思春期を迎えてから四十歳ぐらいまでの男性
は、毎日、一日に二回ほど石鹸を使って顔や身体を洗って
いただいて良いと思います。それ以外の、思春期前のお子さ
んや女性、五十代以降の男性などは、逆に皮脂の分泌が
少ないので、毎日全身を石鹸で洗わなくても良いでしょう。
頭と顔と、胸と背中の上の辺りといった皮脂が出やすい場
所ぐらいで十分です。汗とホコリなど汚れの八十%はぬる
ま湯で流すだけで落とせます。日本人は清潔志向が強
すぎて、強くこすって洗う人も多いですが、こすればこするだ
け、肌のバリアを痛めてしまいます。泡で優しく拭うように
洗っていただければ、それで十分です。

一つ目が、保湿です。化粧水で保湿ができると思つてらっ
しゃる方も多いのですが、化粧水は保湿にはなりません。
皮膚科医では、クリームを塗って角層の上に皮脂膜の代わ

りとなる膜を張ってあげることが保湿といえます。特に子
供や女性、五十代以降の方などは毎日クリームを塗って
いただく方が良いでしょう。

そして二つ目が紫外線対策です。子供の頃から紫外線
対策を続けていけば、紫外線での発癌率が八、九割は防
げると言われています。紫外線は、とにかく害なんですよ。
特に子供は感受性が高く、若いうちに大量の紫外線を浴
びると、皮膚癌のリスクが高まりますから、大人がしつかり
と守ってあげないといけません。

普段は、これら二つを守るだけで良いでしょう。あまり
手を加える必要もありません。よく、自分でいじって
しまつて敏感肌にしてし
まう方が多いです。どんな
スキンケアをしているのか
伺うと、洗い過ぎ、こすり
過ぎ、いろいろ付け過ぎの
ようです」



「愛は許し」 相手を許すということ

「私はカトリックの学校に通っていたこともあり、愛は許し
だと教えられました。患者さんがちよつとしたわがままを
おっしゃってもスタッフに対して、命に関わるものでもないの
だから、「許してあげましょう」と言っています。こちらに
も落ち度があるかもしれませんもの。それよりもまず、来
ていただいたことに感謝しています。生活には実利的に何
のメリットもない治療ですから。相手を許すと自分のこ
とも許しやすくなるんですね。逆に周囲に厳しくして
いると、どんどん自分を追いつめることにもなります。何
よりもまず、患者さんの要望を聞いて受け入れて、そして
何かあった時には許し、そして許していただく、そんな信
頼関係が理想です。」